永想恋続。

ひとみ

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト
http://pdfnovels.net/

注意事項

このＰＤＦファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にＰＤＦ化させたものです。
この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのＰＤＦファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】
永想恋続。

【Ｎコード】
Ｎ０００７Ｙ

【作者名】
ひとみ

【あらすじ】
春菜は幼馴染みの孝太が、
あるきっかけから豹変したことに気付く。
二人の間に突然入ってしまった、
亀裂の正体とは・・・！？

プロローグ

こんにちわ！
私は、星川　春菜　（ほしかわ　はるな）

私には、今・・・
“想い続けている人”がいる。

ねぇ・・・・
本当のキミを。

真実が秘められている、
その心の内を。

私にも。

私にも、見せてくれませんか――――――――――？

私は・・・・、
私は。

あなたを、

暗くて。
辛くて。
悲しい・・・

心の闇から、解き放つことは
できますか・・・・・・・・・・・・・？

まだ無力？
ううん。そんなことない・・・・。

そうって言いきれる？
わからない・・・・。

私は心の中で、自問自答を繰り返す。

自信、ある？
ある、多分・・・・。

ちゃんと言える？
・・・面と向かって。“好き”って・・・・
言える自信は、あるの・・・・？

・・・自信なんかない。

そんなの、一生・・・この先も、
ずーっと、ずーっと先も・・・

そんなの、
ないよ。

だから・・・
言えない、

違う。
違うよ・・・

言えないことなんか、ない。

・・・多分。

ドウスレバイイノ・・・？

・・・・・・・・・・・・神様・・・・・・・・・・・・

プロローグ（後書き）

どもどもｗｗ
駄作者の記念すべき第一作目です！！

読んでくださる方がもしいらっしゃれば、
心より感謝いたします。

設定

星川　春菜
　ほしかわ　はるな
中３
孝太と幼馴染みで
家のマンションの敷地が隣同士
髪の長さは、そのままだと肩甲骨らへん（笑）で、
基本編みこみ付きのポニーテール
普通に可愛い
頭も普通に良くて、５教科中３教科は７５点以上

白馬　孝太
　はくば　こうた
中３
中１のころから、彼女がいる
（春菜はそう思っているが、なんか孝太がフったらしいよｗ）
母子家庭
頭も春菜と同じくらい
普通に・・・いや、めっちゃかっこいい

宮川　京香
　みやかわ　きょうか
中３
孝太の彼女（元、ねｗ）
めっちゃ可愛い
髪は肩のとこらへんで、

時々二つ結びしたりしているが
基本そのまま

白馬　美紗奈
　はくば　みさな
孝太のお姉ちゃん
大学生で、春菜のお兄ちゃんと付き合っている（同い年）
押しが強く、おせっかい
頭？あぁ、いいよ。よすぎるから！
きれいなお姉さんみたいなイメージ
大学では物理

星川　春也
　ほしかわ　はるや
春菜のお兄ちゃん
大学生で、美紗奈と付き合っている（同い年）
かなりかっこいい
さわやか～って感じの人
でまぁ、頭良いみたいなねｗｗ
大学では音楽

高木　葵衣
　たかき　あおい
中３
春菜の親友
勉強？なにそれおいしいｎ（ｒｙ
みたいな感じｗ

点数はだいたい５０点以下くらい
ピアノ上手い
合唱コンとかではいっつも伴奏
明るくて、クラスのムードメーカー的な存在
髪は首の付け根らへんの長さで、
時々一つにしている

第1話　「愛しいキミへ」　春菜ＳＩＤＥ

びゅうううっ）

春菜　『寒・・・っ』

１１月の冷たい風が、
私達の体を冷やしてゆく。

葵衣　『手袋、付けてくるべきだったね・・・』

葵衣はそう言い、
手にはぁ・・と白い息を吹きかける。

春菜　『ほんとだよぉ・・・』

私はそう答えたあと、
手をポケットに突っ込んだ。
でもほんと、寒すぎる。これって地球温暖ｋ（殴

葵衣　『ねぇーー。ココア買ってこうよぉー』

春菜　『あ、いいねっ＾＾』

葵衣の提案に、すぐさまｏｋし
自販機へと歩みを進める・・・

？　『ちゃんと答えてっ！！！！』

女の子の声・・・

春菜　『え・・・』

誰だろ・・・？

葵衣　『どうせけんかでしょ？
　気にすることないよ。私達、部外者だし』

春菜　『うん・・・』

そう答えた私の目に飛び込んだ光景・・・

？　『放せって！！！』

・・・っ！？

春菜　『孝太・・・』

葵衣　『ええぇっ！！？
　あの人が前言ってた幼馴染み！？』

葵衣は、驚きが隠せない様子・・・。
私だってびっくりしたよ・・・

春菜　『うん・・・。』

隣の・・・可愛い女の子。
誰だろ。

春菜　『あの子・・・。泣いてる・・・』

孝太・・・？
ほんとに、あれが孝太なの？

葵衣　『春菜が見せてくれた写真と、全然違う・・・
　別人みたい・・・』

春菜　『・・・』

私は、放心状態のまま葵衣の言葉を聞き流す。
その時、気が付いてしまった。

春菜　『あ・・・。あれ、京香ちゃん・・・
　孝太の元カノだよ・・・』

さっき泣いてた子は京香ちゃん。
孝太の元カノで、すっごく可愛い子。

葵衣　『うそっ！！！
　なにそれ！』

春菜　『・・・うん。
　わかんないけど・・・・。』

わかんないけど、これだけは言える。
確信してる。

・・・孝太が変わったのは、
京香ちゃんと付き合いだしてからだってこと・・・・。

なんとなくは、勘付いてた。

そのカギは・・・、
私の呼び名かな・・・って。

だってね？

幼稚園に入る前までは、
“はるちゃん”と“こーちゃん”だった。

幼稚園に入ってから
“はる”と“孝太”。

小学校の中学年くらいに上がると、
“春菜”と“孝太”で。

高学年になれば、
恥ずかしいってのも、あったかもしれないけど・・・
“星川”と“孝太”になって。

孝太が名字呼びになった。
名字になる前日・・・
結構ショックだったから覚えてる。

・・・孝太は京香ちゃんに告白された。

でも、私が知ってる限り
京香ちゃんにとっては、それが遊びで。

それで二人は別れた・・・はずなのに。

なんで今・・・
なんで・・・

春菜　『なんで二人が・・・、
一緒にいるの・・・？』

ショック、頭ん中、真っ白。
頬に温かいものが、流れてきた。

春菜　『私・・・なんで泣いてなんか・・・』

別に、二人のことだから・・・。
私は関係ないのに・・・。

葵衣　『春菜・・・。
向こうのほう、行こう？』

葵衣はいつの間にか
ココアを2つ、買っていて。
それを渡してくれた。

春菜　『ありが・・と・・・』

あったかいココア・・・。
私の冷たかった手が、じんわりと温かくなる。

葵衣　『いいよ。・・・大丈夫？』

葵衣は、なんにも知らない。
なんにもわかんない。
それでも、優しく問いかけてくれる・・・。

春菜　『うん・・・（ニコッ』

・・・ほんとは大丈夫じゃない・・かも。
でも・・・、
これ以上葵衣を困らせたくなかった。
だから・・・
無理に笑顔を作ってみる。

私は、まだ何も知らなかった。
知らないことが、多すぎた。
知らない方が、幸せだった。

なんでなの？

不安が胸いっぱいに渦巻いて。
苦しいのに、哀しいのに、
・・・大丈夫とか言ってる。

私がこんなに泣いている、意味が、
苦しんでいる、意味・・・。

孝太は、私のために・・・
京香ちゃんと、付き合い始めた。

こんな私でも、守ってくれた。
こんな私ですら、守ってくれていた・・・。

・・・自分を犠牲にしてでも。

ごめんね、孝太・・・。
私、弱いよね・・・。

こんな私・・・嫌だよね・・・。

それなのに、孝太に頼ってしまう・・・・。
孝太、優しすぎで・・・。

孝太自身を脅した、京香ちゃんまでも・・・
かばおうとした。

“どうして？”

・・・愛しいキミへ

私は、問いかけるの・・・。

To be continued

第1話　「愛しいキミへ」　春菜ＳＩＤＥ　（後書き）

駄作者は風邪を引きました・・・。
熱ないけどｗ
文才無い奴が小説書くと
こうなるんだと実感&痛感・・・

じゃあまたお会いできる日までー・・・（笑

・・・ｔｋこの小説読んでくれてる人いるの？
あ、内申沢さん、教えて！

だが断る　ｂｙ．南沢

なんでエロ沢さん！？
あなたはまだ月山にいるの？
てかさ。。。
南沢さん月山のｕｎｉｆｏｒｍの方が似合ｔｔ（黙

じゃあこんどこそアデュー

第2話　『心の内側は。』　孝太ＳＩＤＥ

京香『ちゃんと答えてっ！！！！！』

京香がでかい声を出す。
俺が無視しようとするのを察してか・・・・
ぐいっ）
手首を掴まれた。

孝太『・・・っ！？』

京香『ねぇっ・・・・』

京香が顔を引きつらせて、
呟くように言い・・・・

孝太『なんだよ・・・・っ』

俺もつられて小さい声になる。

京香『いいでしょ・・・・?』

その顔を見た俺はもう、
怯んでしまっていた。

・・・京香が
京香が、淋しそうな目をしていたから。

孝太『・・・わかった』

そう言った俺の肩に、
京香が手をまわしてくる。

その瞬間、昔・・・
京香と付き合っていた頃の記憶を、
思い出してしまった。
俺は思わず、

孝太『放せって!!!』

声を荒げてしまった。

京香『・・・なによ・・・・・っ!?』

京香は迷惑そうに俺を見る。

孝太『・・・そこまでしなくてもいいだろっ？』

声を小さくして
話を続ける。

孝太『もう、終わった関ｋ（京香『違うっ！！』　・・・？』

京香『まだっ・・・
まだぁ・・・・・終わってっ
・・・ないもん・・・・っ！！！』

京香は突然、何かが吹っ切れたかのように
泣き出してしまった。

孝太『京香・・・！？どうした？』

オロオロする俺に、
京香は泣きながら言った。

京香『一番つらいのはっ・・・！

苦しいのは私なのにぃっ・・・・』

孝太『・・・？』

ドウイウコト？

頭が混乱していた。
意味が分からなかった。

京香『頼まれただけでっ・・・・・
遊びっていうのも・・・っ』

嘘だろ？
今度は頭が真っ白になってきた。
頼まれたって・・・・。

誰に？
なんで？

孝太『向こう・・・行こっか？』

俺は優しく京香に呼びかける。

京香『・・・・（コクッ』

素直に頷く京香。
・・・俺達はそのまま、
近くにあるファミレスに行った。

・・・・・・ファミレス・・・・・・

陸玖さんは、京香のお姉さん・・・美香さんと
同じ会社に勤めてて、
色々と俺達の面倒を見てくれた人。

孝太『ありえない・・・・・・』

驚きを通り越して、
絶句。

京香『・・・春菜ちゃんのことも、
全部・・・・・』

・・・・春菜、まで？

京香『・・・言う通りにしなきゃ、
犯すって・・・・・・・っ。
ごめん・・・・・・』

・・・京香はなにも悪くなかった。

京香『処女だけは・・・・・・・・
奪われたくなくて・・・』

悪いのは・・・、
陸玖さん・・・だった？

孝太『京香・・・・・・
京香は・・・何も悪くないよ
謝るのは、こっちだよ・・・』
京香『孝太っ・・・・・・・・』

京香の目からは、
大粒の涙。
偽りの涙なんかじゃなくて、
綺麗な・・・
本物の涙。

ぽんっ）

俺は京香の頭を撫でる。

孝太『つらかったよな・・・』

そう言って。
やっと、平和が来たかなって。
思った、とき。

京香『次は・・・
春菜ちゃんかもしれない・・・・っ』

孝太『っ！？』

空耳だと思った。
聞き間違いだと思った。

・・・やっと守りきったと思いたかった。

なのに・・・・

カミサマッテズルイネ。

Ｔｏ　ｂｅ　ｃｏｎｔｉｎｕｅｄ

第2話　『心の内側は。』　孝太ＳＩＤＥ（後書き）

なっ！！！！！！！！！

シリアスがはいったどぉー

なーんでーーーーーーーーーっ？

酷いねぇ。

早くこの危機から脱出せねばっ！！！！！！

第3話　『“好”と“嫌”は紙一重』　春菜ＳＩＤＥ

――――――あれから。

私は、葵衣の家に行って。
あったかいココアをもらって。
慰めてもらって。

何が悲しかったのか、わからない。
何で泣いたのか、わからない。

・・・ただ、苦しかった。

胸が、息もできないほどの力で
締め上げられるみたいに、
・・・痛かった。
てか、ほんと悲しかったよ・・なんか。

でも・・・ね？

分かったかもしれない。
冷静になって、考えてみた。
そしたら、真実が見えてきた。
うん、見えてきた。
多分・・・
ん・・・多分って・・・
見えてきたと、思い、たい・・・？

うん。今はそれだけで十分なんだね。

何でもかんでも、
絶対、絶対って・・・
それじゃ、ね。
きりないよね。

じゃあもう、思い切っちゃおっか。
思い込みで突っ走っちゃおっか？

うん。それでいい。
それでいい。
それでいい。
じゃあ、実行。

実行内容　・・・

調子でてきたから、ちょっとWCいってくら！（キリッ

・・・

プルルルル・・・

春菜『出ないｗｗ』

・・・

やっぱり星川・・・
別に・・・っ
別に悪いことじゃない。
けど。
何か理由がありそうだった。
孝太がどこか、苦しんでいるようだった。
・・・だからこそ。
おせっかいでもいい、
嫌いって言われたっていいから・・・っ！！
孝太にとって恐怖の、〈何か〉から、
助け出したかった。

私が首を突っ込んで、どうかなるんだろうか？

疑問が頭に浮かぶ。
けど、実行してみなきゃ・・・わかんない、よね。

・・・てか、葵衣という慰めてくれる人がいる私って、
愛と勇気しか友達いらないアソパソマンよりかなり有利だよね・・・
↑
メールの返事を返す、
そんなことで、こんなに考えるとか私マジ馬鹿かッ！？
・・・とにかく返そう？

ってことで、私は

・・・・・・・・・・・・
３６４点だよ＞＜
２点差だね・・・
・・・・・・・・・・・・

みたいな、初心者メールを打ってみる。
なかなか聞きたいことが聞き出せない・・・・！
で、

・・・・・・・・・・・・
３６４点だよ＞＜
２点差だね・・・

ところで、
最近京香ちゃんとはどう？
・・・・・・・・・・・・

よし。
さりげな～～く質問おｋッッ！！！
送信・・・

・・・５分後・・・

・・・メールが返ってこない・・っ
もうちょいスキンシップとったがよかった？
いや、単刀直入に聞きすぎたか？
・・・・・なんかもうわからんのだがっ！
けど、メールが返ってこないことは事実・・・。
結構草臥れる。
流石にきついです・・・（汗

先に夜ご飯食べよう；
？？？
あ、メール来てないｗ

先にお風呂入ろう；；
？？？
来てない・・

先に歯磨きしよう；；；；
？？？
・・・・！？（怒）

なんで・・・？
眼から、熱いものが流れてくる。
・・・私の涙腺は、完全に崩壊。

なんか哀しいです。
てか空しいです。
もう寝ちゃったとは言い難い時間・・・7時。
無視される必要性、あります？
京香ちゃんのことには触れなくていいから、
なんか送ってほしかったんですが。
拒否ってもいいから反応が欲しいんですが？？？――――――ッッ！！！
・・・酷いよ、ね。

To be continued

第3話　『“好”と“嫌”は紙一重』　春菜ＳＩＤＥ（後書き）

作者ですね、あ、自慢なんですけどねw無視していいですっ！
昨日技術で、キーボードの練習みたいなやつで
ほかの男子に早いって言われてた
O君抜いたんですよ（ドヤッ
しかもみんなが1分以上掛かったの、
２８秒でwwwww（テヘペロ↑
フッwwww↑
ピアノもやってるからねwwwwwww
偽物ブラインドタッチでww↑ちょっと違うようんw
中1の文才ない駄作者が小説を書くことによって
キーボード打ちが早くなるんだっ！！！！
以上、駄作者自慢話コーナーですたッ↑

第４話　『ＡＭＵＳＩＣ　ＲＯＯＭ』　春菜ＳＩＤＥ

なんか哀しいです。
てか空しいです。
もう寝ちゃったとは言い難い時間・・・７時。
無視される必要性、あります？
京香ちゃんのことには触れなくていいから、
なんか送ってほしかったんですが。
拒否ってもいいから反応が欲しいんですが？？？――――――ッッ！！！
・・・酷いよ、ね。

てなことがあって、３時間。
で、今１０時。
寝るよもう？
寝ちゃうよ？

・・・じゃあｇｏｏｄｎｉｇｈｔっ！！
なにげにＥｎｇｌｉｓｈ・・・
しかもメールのこと全然気にしてねぇーっ！！！

・・・・・・・次の日の朝・・・・・・・・・・・・・
・・・今の雰囲気：どよーん
はい正解。

だって酷いよ！
メール来てないよ！！？
幼馴染みとしてどーなのッ！？
あっっりえないでしょ？
ひっっどくない？

意味わかんないし！！！
・・・とかいう私、激しく自分勝手だよねw
朝ごはん食べて、歯磨きして、髪型セットして。
卒業まであとちょっと、てか1ヶ月。
葵衣の憧れの先輩は、告白する前に卒業して・・・
って、それくらい卒業って早いってことなんだよ・・・
しんみりしてたら、またイライラしてきた・・・
・・・とにかく遅刻しそうなんで・・・っ

春菜『いってきまっす！！！』

とかいって、家は学校の目の前なんだがw
新事実を発覚させるけど、
私バリバリ体育会系の陸上部だからねww
ちなみに葵衣はテニス部。
孝太は、（葵衣『春菜ぁ！！！おっはよぉー』・・・
春菜『葵衣！おはよー＾＾』

葵衣『ねーねー・・・社会のプリント見せてー？』

やってないんだね、うん。
まぁ・・・

春菜『私もやってないけどｗｗｗ』

そういうと葵衣は、
目を見開かせて、

葵衣『うっそ・・・！！！！
春菜が？あの春菜が！？』

いやいやいやいやいｙ（ｒｙ
どの春菜だよおいｗｗ
てか、どうしよう・・・

春菜『梨桜（りお）に見せてもらおっか？』

梨桜はクラスの子で、
誠実＆ツインテ、吹奏楽部
という、なんかホント可愛い子。

葵衣『あぁ！いいねそれっ！！
りぃたんどこかなー♪』

・・・ちなみに葵衣は、梨桜のことを
りぃたんと呼んでいる。

春菜『音楽室のぞいてみよっか？』

葵衣『だねぇ＾＾』

そんなことを言いながら、私たちは
音楽室へ。

・・・不可能ッテ知ッテル？
どこかの誰かが、呟いた。
・・・世界ガ平和ニナルコトナンダヨ。

Ｔｏ　ｂｅ　ｃｏｎｔｉｎｕｅｄ

第４話　『ＡＭＵＳＩＣ　ＲＯＯＭ』　春菜ＳＩＤＥ（後書き）

だめだ。
話まとまってないじゃんｗ

第5話　『後悔』　春菜ＳＩＤＥ

だれが日本は“平和な国”なんていったの？
なんでだれも、教えてくれない・・・？
なんで事実を言わないの・・・？

だって平和だって信じているから。

だから他の人は教えてくれない。
自分で知るしかない。
それには生きるという方法しかない。
だって教えてくれない。
だから結局知るしかない。

なにもしなくても
生きてるだけで知ってしまう。
分かってしまう。
世界はみんな、知っている。

汚名　潔白　濡れ衣　真実　事実　正義。

どんなに汚い言葉を並べても、
どんなに綺麗な言葉を並べても。

所詮人類だった。
結局何よりも弱い生物だったって。

みんな気づいているのに、

そのことに触れない。

人間結局、嘘しか言わない。
最後は結局、何も言えない。
だから黙っている。

全部、全部が空白なんだと・・・・・・・・・・・・・・・

本当はだれも気付けない。
気づいていることに気付けない。
正義を理由に、それには目を向けない。

だからなにも見えてこない。
平和なんてこの世に有り得ないことだってこと。

私も目を逸らした。
誰だって目を逸らした。

逸らさなかったのは、
お話の中の、勇者だけ。

私は勇者じゃない。

それでも、やっぱり誰一人として、
真実を知らない。

Ｔｏ　ｂｅ　ｃｏｎｔｉｎｕｅｄ

第6話　『ミタモノ』　春菜ＳＩＤＥ

・・・あぁ。
この世界に・・・・・・、

〈キセキ〉

って・・・。
あるのならば、信じてみたい。
信じたい。

・・・・・あのとき、あの日・・・・
私・・・ううん、
私達が、みたもの・・・・・。

春菜『失礼します・・・・
・・・ッ！？』

葵衣『ぇ・・・っと？』

状況・・・？
そんなん知ったこっちゃない。
――――――？あれはなに？

――――――??あれはダレ？

・・・梨桜は、居なかった。

・・・代わりに――――？　、ね？

春菜『こ！？

・・・・～、孝太・・・・・・ッ』

・・・・・・・が、いたんだから。

ううん。正式には・・・

葵衣『！！？

・・・京香ちゃん・・・・って・・・子？』

そうなんだ。

現実は避けられない。

現実は回避できない。

〈幼馴染み＝同じ学校。〉

こんな式が、頭の中で立てられて――――？。

春菜『・・・あ・・・っれー？

梨桜、いないねぇー？お・・・かしい・・・・なぁ・・・・・？』

今にも泣きそうになっている・・・
私のことに、
自分のことに、ムカつく。
殴ってやりたくなる。

――――――――――?意気地なし。

・・・そんなとき、だったから。

春菜『・・・っ!?』

・・・びっくりしすぎて、
なんか分かんなくなって・・・くるよ。

孝太『・・・・あの・・・さ』

・・・手、なんか握んないでよ。

孝太『ごめん・・・』

・・・そんな風に謝んないでよ。

孝太『辛い思い・・・させ・・て・・・・』

・・・また、好きになっちゃうでしょ？

春菜『・・・か・・・・』

・・・諦めは、ついてたハズなのに。

春菜『・・・ば・・・ばか・・・ッ』

・・・いじらしいほど、あの頃に戻りたくなる。

孝太『ごめん・・・・・』

春菜『謝んないでいい・・から・・・
も・・・ぅ・・・いいか・・ら・・・ッ』

だめだ・・・目頭が熱くなって――――――？
涙腺が崩れかけている。

春菜『うううううう・・・っ』

孝太が戻ってきた、って感じがした。
まだなんにも・・・
アクションとか起こってないのに、
胸がギュゥゥゥ・・・って締め付けられて・・・

あの頃の記憶・・・・・・・・・・

小学校入学してからちょっとの時期までは・・・・・・

あの頃の私たちは、なにをするときも、
必ず一緒にいる、いわゆる幼馴染みってやつだった。
・・・今も、〈幼馴染み〉は、変わらないんだけど。

別に小説とかアニメみたいな、
特別な関係は、
私達二人の間には、何もなくて。

――――――――?でも、それでも、満足してた。

いつも、一緒にいるだけで心が満たされたし、
お互い楽しかった。

でもね・・・?

・・・孝太が変わった、
・・・小5の夏の日・・・・・。

夏祭りの前の日・・・
孝太は京香ちゃんに――――――？、
告白、された。

夏祭りは、一緒に行こうねって約束してた。
・・・・・なのに。

ドウシテ？

孝太は私に何も言わずに・・・・
私に謝ることもなく・・・

夏祭りに、行ってしまった。

・・・京香ちゃんと、二人で。
つまり、ＯＫしたってこと。
二人は付き合いだしたってこと。
あとから孝太に報告された・・・・・。

あの、告白された、その日から・・・・・・
孝太と私の距離は、広まっていった。
縮むことを、知らないように。

・・・・・・・・・・・・・・・・・・あれから。

中３の、冬。
今に至る。

私は散々泣いた後、落ち着きを取り戻し、
孝太と京香ちゃんに、改めて謝罪された。

孝太は、京香ちゃんに、

〈付き合わないと、春菜ちゃん誘拐するらしいから・・・〉

って言ってたらしい。
展開が急すぎて、私の脳みそは、
ついていけない、のに。

京香『陸玖さんには・・・、
逆らえなくて・・・ッ』

Ｔｏ　ｂｅ　ｃｏｎｔｉｎｕｅｄ

第６話　『ミタモノ』　春菜ＳＩＤＥ（後書き）

あーー・・・この小説続編入りそう・・・・；
てか終わりそう・・・？

第7話　『陸玖さん』　春菜ＳＩＤＥ

京香『陸玖さんには・・・、
逆らえなくて・・・ッ』

え・・・ちょっと・・・・・
ま・・・って・・・？

春菜『陸玖さん・・・って？』

ダレ？
何歳？
どんな関係があるの？

京香『私達が、お世話になった人・・・
・・・なんだけどね・・・・？』

京香ちゃんはそのまま話を続ける。

京香『私のお姉ちゃん・・・私と孝太も・・・・・』

え・・・・？

京香『ううん・・・孝太は、巻き込まれただけ・・・』

京香『私とお姉ちゃんが・・・家出・・・
したときに・・・』

京香『かくまってくれた・・・
そのあと家には帰ったけど・・・』

京香『お姉ちゃんを・・・
ホテルに誘って・・・』

な・・・！？

京香『お姉ちゃんまだ初めて――？・・・だったのにね』

京香ちゃんは、ハッ・・・と、
乾いた笑いを漏らす。

京香『ばっかみたい・・・。
次は、私の好きな人の、
大切な人を襲うーとかって言い出して・・・』

京香『その人を守ろうとしたら、

今度は私とヤる・・・とかって・・・・』

京香『それだけは・・・
大切な人ができたときのために、とっておきたかった。
・・・あーぁあ・・・・』

じゃあ・・・じゃあ・・・・・・

春菜『私を守るために・・・・？』

京香『うん・・・まぁ、そんなとこ。
好きな人――？？？？？？？？、孝太の大切な人だもん・・・・
助けたかった・・・っ』

そんな・・・・・・
本当に傷つけていたのは、どっちだったんだろう？

京香『今も、狙われてる。
・・・春菜ちゃん、あなたが』

京香ちゃんの冷静な言葉が、
異様に胸に突き刺さった。
欠陥までも、カチン・・・と固まってしまったみたいに。

春菜『・・・う・・・ぅ・・・っ！？
嘘・・・・・ぇ・・・な・・・ちょ・・・』

・・・私のなにがいいんだろう？
何が楽しくて、陸玖さんって人は
そんなことするんだろう？

そこで孝太が口を開いた。

孝太『残念だけど、嘘じゃない・・・・』

哀しい、空しい、
哀れな現実は――――――――？、
この目の前にある出来事のために、
作られたんじゃないか？って。

京香『そう。嘘じゃないんだけど・・・
・・・・・・陸玖さんね？
・・・亡くなったの』

・・・・・はい？

春菜『ちょ・・・っと！！？
私の今のしんみりした空気返してよぉぉッ！！！』

・・・陸玖さんは、やはり遊び人で
女に恨まれ、殺されたんだとか。

葵衣『何この展開。。。』

・・・私が聞きたいな。

京香『・・・で。
誘拐ってのは、ただの口実。』

・・・おい（怒

京香『あのねー・・・？
孝太返すねぇー？』

・・・はい？

春菜『かっ・・か・・かっ返すって！！！
な・・・／／／／／／／』

なんか彼氏とられた彼女みたい・・・／／／／

京香『・・・じゃあ、私は、
春菜ちゃん達を待ち伏せてただけだから、帰るね？』

そういって京香ちゃんは、
手をヒラヒラと振って行ってしまった。

葵衣『あー・・・私もそろそろ行くねー・・・』

葵衣までが、あわただしく音楽室を出ていく。

春菜『～～～～～・・・』

――――？・・・沈、黙。

春菜・孝太『あのさっ』

言葉がかぶってしまう。

孝太『あ・・・先にいいよ』

春菜『え・・・孝太・・・からいい・・よ？』

思わず譲ってしまった；

孝太『じゃあ・・・・

あのさ・・・・・・・・・・・・・・、

俺、

春菜のこと、好き・・・・・／／／／／／』

呼び方が春菜に戻って。

突然の告白で・・・ってぇぇぇぇぇぇぇぇッ！！！？

春菜『え、ちょ・・・っ・・・・

本気？冗談だよね！えっ？えっ！？』

完全にテンパってる私に、孝太は

孝太『今この状況で、冗談とか言わないだろ？／／／／』

・・・心なしか頬が赤い気がするんだけど・・・。
・・・じゃなくてーーっ！！

春菜『嘘ッ！えっ！？ちょ・・・！！！』

孝太『だから、付き合ってほしいなー・・・なんて／／／／』

っっっっっっっっっ・・・っ・・・付き合う！！！？

孝太『返事はいつでもいいから・・・』

見事に顔をトマト色にさせ
テンパりまくっている私に、孝太は
優しく微笑みかけてくれる。

春菜『今・・・言う・・・ッ！
え・・・っと・・・・
～～～、私・・・
私・・・・・・・
も・・・・・・・・・・・・ッ

孝太のこと・・・好き・・・・・・です・・・・・／／／

第７話　『陸玖さん』　春菜ＳＩＤＥ（後書き）

あれぇー？
変なとこで終わってるね（（
てかなぜ告ったんだ！？

ＰＤＦ小説ネット発足にあたって

ＰＤＦ小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は２００７年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連＝横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にＰＤＦ形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのＰＤＦ小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能（たんのう）してください。

この小説の詳細については以下のＵＲＬをご覧ください。
http://ncode.syosetu.com/n0007y/

永想恋続。

2011年12月22日23時46分発行